



ジュゴン Vol.99

ちゃんぷるニュース

SDCC 2018. 7. 19
Save the Dugong Campaign Center

CONTENTS

- 2/3 情勢・伊波議員が国会で追及
● ジュゴン訴訟結審
- 4/5 東京・大阪の取り組み
● 現地の行動報告など
- 6/7 じゅごんの里ツアー報告
● コラム「小惑星りゅうぐう」
- わんさか通信★ジュゴンのわ



6月28日 サンフランシスコ連邦地裁でジュゴン訴訟公開審理が開催され、即日結審した。原告側（沖縄ジュゴンおよび住民代表ら）は、米国家歴史保存法 402 条が要求する、ジュゴン保護の手続き、特に名護市、沖縄県などの利害関係者との協議がなされておらず、海草保全はじめとする環境保全措置も非科学的で、ジュゴン保護を担保しないと主張した。国防総省側は、日本政府および委託したコンサルタントを通じ協議は行ったとくりかえすのみ。裁判長の「協議の具体的内容を示せ」との指摘に答えられなかった。

国会では、伊波洋一議員が防衛省に対して「環境アセス評価書には海草移植をまず実験し、消失する海草も場の代償を検討する」と明記されているが未だ実験は行われていない。実験も行わないうちに、土砂投入を行うのはアセス評価書に反する、と追及した。防衛省は、「埋め立てを行い、埋立地周辺の海草も場に影響が出れば、移植を検討するという意味だ」と開き直った。辺野古の海草も場消失は前提で、移植などの代償措置は必要ない。基地ができてから「その周辺の海域」で海草も場に影響が出れば移植を考えるというのだ。ジュゴン個体 C 行方不明の原因についても、沈黙したままだ。

土砂投入を許さない 8/11県民大会に向け埋め立て承認撤回を

沖縄防衛局は沖縄県に、8月17日より辺野古への土砂投入を県に通知した。土砂投入は、海草も場を消失させ、環境を不可逆的に破壊する。アセス評価書にも、埋め立て承認の「環境配慮事項」にも反する全く違法なものである。

翁長県知事の「埋め立て承認撤回」は残念ながら6月28日のジュゴン訴訟結審までには行われなかった。8月17日の土砂投入に反対するため、8月11日に沖縄県民大会が行われる。県民大会をまたない知事の「埋め立て承認撤回」をなんとしても実現・後押しし、8/11 沖縄県民大会を「土砂投入を許さない」沖縄県民と全国を結んだ集会として成功させよう。ジュゴン訴訟に勝利し、工事差し止めを国際世論とつながって実現しよう。
(関西 松島洋介)

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



沖縄大学で行われたシンポジウム (2面)



ツアーで訪れた普天間のそいそいハウス(6面)

情勢

「伊波洋一議員が参議院外防委で防衛省を徹底追及」



5、6月の参議院外交防衛委員会で、伊波議員は5回にわたって「8月17日辺野古土砂投入に先立って海草藻場を移植すべきではないか」と防衛大臣を追及しました。もちろん伊波議員は土砂投入に反対で、海草藻場の移植も肯定してはいません。防衛省が沖縄県に提出した「環境保全図書」を「身勝手な判断で、勝手に解釈し、一番広大な藻場を埋め立てるのはおかしい」と批判しているのです。防衛省の身勝手な解釈とは、「施設などの存在の段階を念頭に置いて保全措置を講ずるとしている」（環境保全図書）との文言を、「飛行場完成後に海草の移植などを検討する」と強弁しているのです。さらに、「海草藻場の一部が消失しても、周辺海域の生物の群集や共存状況に大きな変化は生じない」とまで言っているのです。沖縄島最大の辺野古大浦湾の海草藻場を「一部」と表現し、だましているのです。ジュゴン訴訟でも、国防総省が提出した資料に「ジュゴン保全の条件の一つ、海草藻場の移植について実行している」とウソをついているのです。

国防総省と防衛省との間で矛盾が出てきています。沖縄島最大の海草藻場を埋め立てると、移植できる海草藻場はどこにあると言うのでしょうか。海草藻場を移植した事例に（失敗したのですが）、沖縄市の「泡瀬の干潟」があります。伊波議員の質問に国交省は「消失する藻場の主要なものをできる限り移植し、生態系を保全する取り組みをした」と発言しています。この実例をふまえて、有識者研究会が防衛省に海草藻場の移植を提言し、環境保全図書が作成されたのです。

私たちとの打ち合わせや資料提供をふまえて、伊波議員、スタッフによる議会での継続的な追及が、防衛省の詭弁を社会的に暴露できたと思います。また、伊波議員の働きかけで、沖縄等米軍基地問題議員懇談会が6月27日、防衛省に辺野古のサンゴや海草の保全を求めて土砂の投入中止を申し入れるなど取り組みが広がってきています。

（事務局 蛭川義章）

「今すぐ撤回を！ジュゴン訴訟で辺野古の海を守ろう」 ～シンポジウムと海勢頭豊コンサートの報告

8月17日、防衛省による埋め立て土砂投入を前に、また、6月28日ジュゴン訴訟結審を前に、6月24日（日）沖縄大学で上記のシンポジウムが行われました。高江での11周年集会など慰霊の日の翌日、各地で多くの集会が持たれましたが、100名の参加がありました。シンポジウムは海勢頭豊SDCC代表の挨拶からはじまり、ジュゴン訴訟原告の真喜志好一さん、米国原告団窓口の吉川秀樹さん（SDCC）、沖縄大学名誉教授の桜井国俊さんから、訴訟の経緯やジュゴン訴訟の争点の説明をふまえ、沖縄県が埋め立て承認撤回のための「聴聞」を結審までに宣言すべきであるとの提案がありました。また、安次富浩ヘリ基地反対協共同代表からは名護市議選など「闘いの現局面」が、伊波洋一参議院議員から外交防衛委員会で「海草藻場の保全を無視する護岸工事建設は、埋め立て承認留意事項に違反している」と追及している報告がありました。

討議では、当面の方針について議論が深められました。沖縄県が「撤回の聴聞」手続きに入らなかった場合でも、国家歴史保存法402条に基づいて辺野古基地建設によるジュゴンへの影響を「考慮する」手続きを行っていないこと。すなわち、沖縄県や名護市、専門家と意見交換を行っていない事実を、結審で追及すれば勝利判決の可能性はあるとしました。また、岩国基地滑走路沖合移設の広島高裁判決（2013年）が国の優位・特権を否定し、国の原状回復義務を認めたことをふまえて、「撤回できる」と。また、会場から、三宅俊司辺野古

弁護団長が「撤回は何度でもできる。一部に「遮断効（しゃだんこう）」、一事不再理を心配しているが、10以上もある防衛省の違法事由は遮断効には当たらない」と明言しました。しかし、土砂が投入されると原状回復は不可能になるから、いま撤回が必要と強調しました。

2部では、海勢頭さんのユーモアある社会風刺トークと、海勢頭バンドによる月桃（全員合唱）、喜瀬武原、ザンの海、サンの4曲が歌いあげられ、闘いの決意が固められました。最後に、ジュゴン訴訟結審に参加する真喜志さん、吉川さんへのカンパが訴えられ、4万8千250円が寄せられました。

（事務局 蛭川義章）



ジュゴン訴訟公開審理を傍聴して



去った6月28日、米国サンフランシスコ連邦地裁において差し戻しジュゴン訴訟の公開審理（Hearing）がありました。私は沖縄の原告である真喜志好一さん、JELF(注¹)の三石朱美さんや渡辺貴志弁護士、CBD(注²)、Earthjustice(注³)のメンバーや支援者と共に公開審理を傍聴しました。

昨年12月に国防総省が開示した「行政記録」に基づいて、この4月から原告側と被告側が書面を通して審理が行われてきました。争点は二つ。1) 国防総省は、国家歴史保存法402条に基づき、ジュゴンへの影響を「考慮する」ために利害関係者と協議等をきちんと行ったか。2) 国防総省のジュゴンに影響がないとする結論や影響の緩和措置は妥当なものか。双方の主張が全くの並行線を辿った書面審理を踏まえ、エドワード・チェン裁判長（15年原告敗訴の地裁判決を出した裁判官）が双方の弁護士を厳しく追求したのが今回の公開審理です。

裁判長と弁護士の象徴的かつ印象的なやり取りを紹介します。「国防総省は原告や、影響を受ける地域コミュニティ、沖縄県と協議を行っておらず、それは法に反する」と主張する原告側のサラ・パート弁護士に対して、チェン裁判長は「もし地域コミュニティと協議が行われていたのなら、どのようなことが話されたというか。国防総省が議論した以上のことを示せる証拠はあるのか」と何度も追求。サラ弁護士は「それらの答えは国防総省が出すべきであった」「もし裁判所が許可するのであれば、答えを原告側から新たに提出できる」と回答しました。原告からの具体的な証拠の提示を期待していたのか、サラ弁護士の回答に対してチェン裁判長の表情は納得したようには見えませんでした。



一方「誰と協議をするかについては法は国防省に裁量を与えている」「原告が提案した専門家も含めて多くの人々、県や自治体と協議した」と主張する国防総省の弁護士に対して、チェン裁判長は「なぜ原告と協議をしなかったのか、公聴会を開かなかったのか」「専門家と協議を行っていることさえも原告に伝えなかったのか」と追求。国防総省の弁護士は、裁量権の主張を繰り返し、「協議や公聴会を開催すると日米関係に問題が生じると」回答しましたが、この回答にも裁判長の表情は納得したようには見えませんでした。

差し戻し後の書面審理や今回の公開審理を踏まえて、私個人としては今回の判決には大きく期待をしています。しかしこれまでの4度の公開審理では、公開審理を聞いて判決の方向性を予測できたのですが、今回はそれができないのも事実です。

それはなぜか。1) 「ジュゴンに影響なし」という沖縄防衛局の環境アセスの結論に基づいた仲井眞弘多前知事による埋立て承認が撤回されていない。2) チェン裁判長の判断の根拠となる「行政記録」、審理書面、公開審理の議論のなかで、「ジュゴンに影響なし」とするアセスの結論に対する沖縄県からの反論が存在しない。この状況は原告の主張を極めて弱いものになっていると言えるでしょう。

判決がいつ出るかは分かりません。原告側の弁護士も「来週かもしれないし、3ヶ月後かもしれない」とうことです。いずれにしても、知事による埋立て承認の撤回がいつ行われるのか。沖縄県による環境アセスや工事のジュゴンへの影響についての評価がいつ行われるのか。それらが判決が出る前に行われ、かつ裁判所に新たな証拠／情報として提出することができるのか。沖縄における動きが判決に影響を与える可能性は高いと考えます。
(国際担当 吉川秀樹)

注¹ JELF：日本環境法律家連盟

注² CBD：米環境 NGO 生物多様性センター

注³ Earthjustice：環境保護法律団体 アースジャスティス

7月7日 辺野古県民集会で、吉川秀樹から米国ジュゴン裁判公開審理の報告をしました。

大阪

「アキノ隊員に聞く やんばる高江の生きものたち」



アキノ隊員こと宮城秋乃さんは、2011年から東村高江、国頭村安波で調査活動を行っている鱗翅類研究者です。6月10日に大阪でお話し会を開催しました。

やんばるの森は、「東洋のガラパゴス」とも言われる生物多様性豊かな森。その森に棲むチョウやトンボ、カメ、ヘビなど、様々な生きものたちの採餌行動、交尾、子育てなどの興味深いお話が映像とともに次々とくりだされました。森の生きものたちが「ぼくたちここにいるよ」と語りかけているようでした。ところが今この森には新たに6か所のヘリパッドが完成し、オスプレイが飛び交っています。オスプレイの轟音に驚いたノグチゲラのヒナが巣穴に引っ込んで2時間も顔を出さなくなるシーンでは、本当に心配でたまらなくなりました。

ヘリパッド建設のためN1、G、Hの3地区で約2万4千本の立木が伐採されたそうです。1本の木だけでもたくさんの命が棲みついているのですから、どれだけの生きものが殺されたことでしょうか。いのちの森の悲鳴が聞こえてくるようでした。

子どもの頃の虫好きのまま大人になったというアキノ隊員の「地球上でここにしかない生きものがここにはたくさん棲んでいます。ここにしかない環境を、人の手で作ることができないこの森を壊してはいけません」

の訴えに応え、これからもヘリパッドの撤去、オスプレイの飛行停止をもとめていきましょう。

(関西 山根富貴子)

※アキノ隊員は、自費で調査活動が続けられています。カンパを送って応援しましょう。

振り込み先はこちら

ゆうちょ銀行 口座名義：ミヤギ アキノ

記号：17030 番号：18520051



会場は超満員で、イスをたくさん追加しました。ブースでは、アキノ隊員の書籍「ぼくたち、ここにいるよ：高江の森の小さないのち」(影書房)も大好評でした。

東京

「軍事基地で辺野古の海をつぶすな！止めるぞ！土砂投入6.9集会」報告

防衛省は8月17日に辺野古の海に土砂を投入することを明言しています。沖縄県知事選前に埋立工事に着手し市民に諦めを誘い、権力に逆らっても無駄なことを見せつける魂胆が見え透いています。

首都圏では5月に新基地建設に反対する23の市民団体と個人が、「辺野古の海を土砂で埋めるな！首都圏連絡会」を結成し、埋立てストップの決意を新たに取り組みを始めました。

6月9日に、結成後初めての集会が開かれました。

沖縄平和運動センターの山城議長が「今が未来をかけた闘いの正念場！翁長知事には埋立承認の撤回をしてもらいたい。市民は辺野古の現場で声を上げ続ける」「市民運動は引いたり押ししたりだ、アメーバ大行動をしよう」と、「座り込めここへ」などの歌で参加者と交歓しながら、渾身の力を込めて現地からの訴えをしました。

埋立てには膨大な土砂が必要だが、全国港湾労働組合は土砂を運ばないとの決議を掲げている。熊本、長崎など土砂搬出予定地の住民は、埋立てに使わせないと切り出した土砂の埋戻しを要求しているなど、運動の広がりも報告されました。

会場の文京区民センターには300名を超える仲間が集まり、立錐の余地がないほどでした。

今後も集会や抗議行動、署名などの首都圏キャンペーン活動が取り組まれます。「美ら海を壊すな！」の訴えを広げ、全力で土砂投入をストップしよう！

(首都圏 蟹江由美子)



沖 縄

＜辺野古カヌー-6月25日の取り組み＞

6月25日、へり基地反対協の主催する第4回海上座り込み大行動に参加してきました。

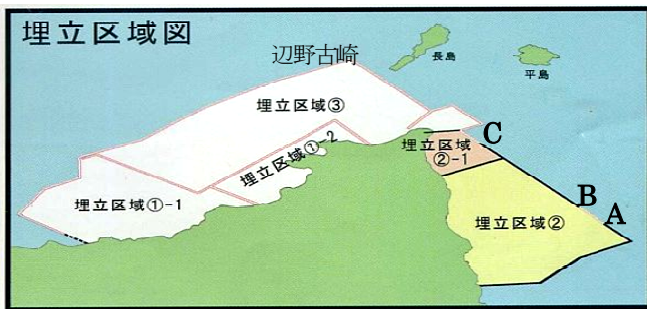
カヌー68人。抗議船9隻も合わせると、参加者は170人。政府が「8月17日に土砂投入を開始する」と沖縄県に通知してから初めての大きな集会でした。あと数日で護岸が閉じられようとしている「K4護岸」AB地点の前で集会は行われ、「土砂投入するな」「命の海を守ろう」等のプラカードを掲げました。抗議船からは、沢山の参加者のスピーチがありました。

9時30分頃に集会は盛り上がり、同じく護岸が閉じられようとしているK4護岸C地点のオイルフェンスを乗り越えてカヌー隊は工事現場に向かいました。一瞬でも工事を止めようと、午前2回オイルフェンス越えがありました。カヌー隊の3分の1ほどは抗議船

とともにオイルフェンス前に留まり、座り込み集会を継続しました。

13時から辺野古の浜で予定していた連帯集会は雷雨のため中止、午後の海上行動も中止となりましたが、テントでミニ集会が行われました。へり基地反対協は、この集会で承認撤回を求める決議を決定。決議文は後日27日に県に提出されました。安次富共同代表が「一刻も早く撤回してほしい、私たちも一緒に頑張る」と訴え、また抗がん治療中のオナガ知事の回復を願い花束も贈呈されました。

8月17日の土砂投入に反対するため、辺野古に行きましょう。ゲート前の座り込み、海上行動に参加し、工事を止めましょう！
(関西 岡村藤美)



へり基地反対協議会の地図に加筆



7月7日「ジュゴン・サンゴを守れ 土砂投入を許さない辺野古新基地建設断念を求める県民集会」
2000人がジュワブゲート前に集まりました。
赤嶺政賢、照屋寛徳、玉城デニー衆院議員、糸数慶子、伊波洋一参院議員らから連帯あいさつがあり、翁長知事のメッセージが紹介されました。

8月11日沖縄県民大会

辺野古沿岸部への土砂投入の中止を！

日時：8月11日（土）11時～
場所：那覇市の奥武山陸上競技場

目標3万人以上
東京でも首都圏大行動があります

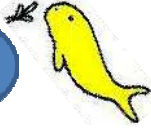
8月ゲート前連続集中行動

集まろう！今こそ止めよう！

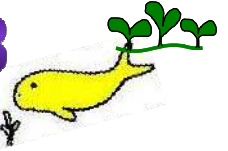
8月6日（月）～10日（金）、8月16日（木）～18日（土） 毎朝8時～

主催：辺野古新基地を造らせないオール沖縄会議

報告



第13回じゅごんの里ツアー2018



普天間第二小学校 赤嶺さん

6/29~7/1
2泊3日の
ツアーあれこれ

予想外の台風の影響で船で大浦湾に出ることはできず、心残りではありましたが、台風ならではの体験ができ思い出深いツアーになったと思います。一部を報告します！ ⇒ 普天間へ

昨年、米軍ヘリの部品や窓枠の落下事故があった緑ヶ丘保育園、普天間第二小学校を、普天間居場所作りプロジェクトの赤嶺さんに案内して頂きました。基地あるが故の不安な暮らしの一端を垣間見ました。やっぱり基地はいりません！



名護市役所 教育長さん

⇒ 名護市役所へ

名護市議の東恩納琢磨さんの計らいで名護市教育委員長さんと面談しました。現市政下で市役所を表敬訪問できた事は意義があったと思います。ジュゴングッズの贈呈を喜んでいただきました。

⇒ 辺野古座り込みテント村へ

台風対策で骨組みだけになったテント…。暑さ、寒さ、台風もやって来るなかで、長年、日々座り込み続けることの大変さ、すごさを感じました。慌ただしい中、丁寧にレクチャして下さった田仲さんありがとうございました。



座り込みテントの前で



骨組みだけのテント村

⇒ 「貝と言葉のミュージアム」を見学

今年3月に、じゅごんの里の敷地内にオープンしました！大浦湾の奥に位置する瀬嵩浜にゆりあげられる(打ち上げられる)700種もの貝が展示してあります。6億年前から進化せずそのままの形で生きている貝がいるなんて、大浦湾の自然はすごいです。宝の海、守らなくちゃ！



ツアーに参加して 初参加者さんより



はじめてのじゅごんの里ツアー。出会った人たちを思い出すたびに、心がほっこり暖くなる。『せいせいハウス』の赤嶺さんの優しい目。(毎朝7時から基地のゲート前に立っているとはスゴイ！)「沖縄の子どもの命の重さは大阪の子どもと同じですよ？」と問いかける、森さんの真剣な目。ご自慢の手作り窯で焼いたパンを振る舞ってくださった民宿・てるやさんの温かいホスピタリティ。名護の生き字引(!?)浦島さんの澄んだ美しい声。「貝と言葉のミュージアム」館長名和さんの、貝をこよなく愛する少年のような純粋さ。そして、何より印象深いのは、村のリーダー、大浦湾を守る男、琢磨さんの存在感。平和と人権を守る粘り強い闘いは、そこで暮らす人々の信頼感ときずながベースにあるんですね。『基地ではなく自然保護区を』の意味を実感した今回のツアーでした。(筒井百合子)

じゅごんツアー初参加は、平和活動とともにしている仲間と一緒に アウェイ感なくすごい現場に全身で取り組みました。前泊して 昨年も参加した大藪さんの案内で 現代史を作ったお二人知花昌一さんと金城実さんの貴重なお話に接し、沖縄の計り知れない理不尽に対して 穏やかにしたたかに不正を糾す姿勢を平和活動のお手本にしたいと思いました。本編のじゅごんツアーでは 美しい大浦湾を壊す基地建設の無意味を思いました。話して下さった田仲さんの気持ちを思うと胸が詰まりました。湾の中には多様な生物が何万年も共生してるのに!! 大浦湾を守る人々が日本中から押し寄せて道を埋めて座ったらいいのに。帰ったらいろんな機会に沖縄の米軍基地の話をするぞ!!と思いました。(安藤泉)



貝と言葉のミュージアム



瀬嵩大浦の里道散策



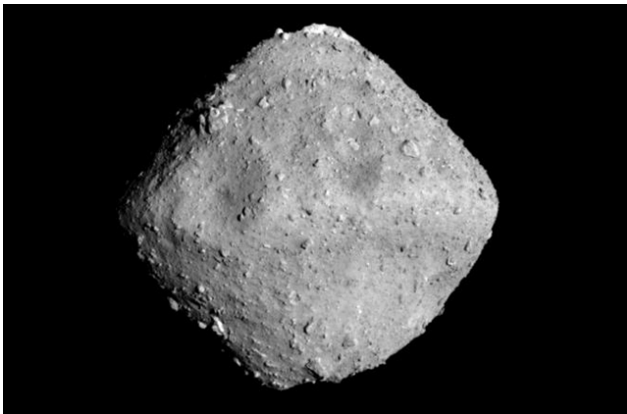
汀間集落を散策



たけの子で沖縄料理の夕食

小惑星「りゅうぐう」～こらむ・コラム～

2014年に打ち上げられた宇宙航空研究開発機構（JAXA）の探査機「はやぶさ2」が、3年半をかけて、6月27日に地球から約3億キロ離れた小惑星「りゅうぐう」近くの目標位置に到着したとのこと。小惑星は太陽系にある小さな天体である。多くは火星と木星の間に帯状に集まっているが、含まれる成分によってS型やC型などに分けられている。初代「はやぶさ」がたどり着いた「イトカワ」は、主に岩石質からなるS型で、今回の「りゅうぐう」は、生命に欠かせない水や炭素を含んだC型。



小惑星は始原天体とも言われ、46億年前に太陽系が生まれた頃の様子を留めていると考えられ、こんかいの「はやぶさ2」のミッションは、46億年前の生命の起源を示す物質を「りゅうぐう」から地球に持ち帰ることだとされている。勿論、その成果には大いに期待を寄せるのであるが、問題は、「りゅうぐう」から水や炭素を持ち帰ったとしても、それらの物質が、いかなる理由で生命現象に利用されるようになったのか？を考えると興味は尽きない。少なくとも、生命を形成し維持する物質の存在を小惑星に確認できれば、それは、大きな前進である。

「りゅうぐう」は直径がおおよそ900メートルと小さく、そろばんの玉に似ているとのことだがそのような小さな小惑星に「りゅうぐう」と名付けたJAXAの皆さんに、感謝したい。なぜなら、「りゅうぐう」とはジュゴンのことだからである。

海勢頭豊（うみせど ゆたか：SDCC 共同代表）

写真：小惑星「りゅうぐう」-JAXAのHPより

① んさか通信 ★ ジュゴンの ①

沖縄マンゴー&台風シーズン到来

沖縄が平年通り梅雨明けした直後、関東甲信地方がなんともう梅雨明け！平年より22日も早く、6月に明けるのは初めての事だとか。

じゅごんの里ツアーにも影響した台風7号の低気圧と前線の影響で7月のスタートは全国的に大雨となりました。カラ梅雨だった沖縄も一転、土砂災害の警報が出るほどの雨量となり、水不足の心配はなくなったものの宮古島では50年に一度の大雨に。

激しい雨により視界が真っ白で先が見えない程の中、注意して家路に向かうと…いつもの道路がないではないか！もごとくに冠水していました。

迂回してなんとか家に帰れましたが途中冠水している道路や水浸しのサトウキビ畑、収穫が終わったばかりのタバコ畑が池のようになっている所を沢山見ました。

他の農作物への影響も心配です。今年はマンゴーも年明けの寒波や日照不足の影響で3割ほど生産量が落ち込むそうです。収穫時期も半月ほど遅れて7月中旬から下旬になるとか。

マンゴーも台風もまだまだこれからです！

(沖縄・小平)



<首都圏>

- ・7/23 (月) 機動隊派遣訴訟第8回口頭弁論
東京地裁 103号法廷 11時半開廷
- ・7/25 (水) 8月土砂投入ストップ首都圏集会 18時半
全水道会館
- ・8/6 (月) 辺野古実、防衛省前行動 18時半
- ・8/11 (土) 県民集会に連帯した行動
11時半集合 12時半デモ出発 東池袋中央公園

《 今後のスケジュール 》

- ・7/28-29 全交 in 大阪 @エル大阪
SDCC 分科会 7/29(土)9:30-12:00 研修室1(5階)
参加費 1日券1200円 2日券2000円
- ・8/23(木)じゅごん茶話会 14時~16時
@ SDCC 関西事務所 参加費200円
- ・8/26(日)大阪アクション4周年記念集会
ゲスト山城博治さん(予定) @PLP 会館 14時~ 500円

<関西>



~ジュゴン大好き子どもたちが辺野古テントへ~



第14回京都ぶどうの木保育園沖縄平和キャンプから

7月5日 キャンプ2日目 雨の降る中、31人の子どもたちはカラフルなレインコートに身を包み辺野古座り込み浜テントへ。ジュゴンの海に基地を造らせないため絶対に諦めないという安次富浩さんは、熱心に耳を傾ける子どもたちに「みんなも夢をあきらめないで!」「夢を叶えて!」と話された。

抗議船船長ゆりちゃんからの、辺野古の海に潜り沢山の命と出会っていること、残念ながらジュゴンには会っていないが、友だちのウミガメとは毎日のように会い、「海を守って!」と訴えているように思う、という話は子どもたちの心にしっかり伝わり、ジュゴンの海を守りたいという思いがより一層強くなったようだ。

子どもたちは、辺野古ゲート前にも足を運び座り込み集会テントで激励の歌のプレゼント。

「芭蕉布」の吉川安一さんが第10回平和キャンプを記念して作詞していただいた「ぼくらの心と命と平和」

そしてアンコールに呼んで歌った歌は10. 10空襲をテーマにした沖縄の2人組「そら」の曲「命の上」。

80名余りのおじい、おばあからは「たくさんの元気をもらったよ!」の声と大きな拍手が。

(沖縄 高垣縁)



<名護市議選派遣カンパのお願い>

名護市議員選挙は9月2日告示、9日投開票日に決まりました。定数は1名減の26人。現在、稲嶺前市長を支持する議員は14人、基地推進の現市長派は13人。立候補予定は稲嶺支持派が14人、現市長派は18人です。過半数は13人、厳しい選挙になります。「基地ではなく、ジュゴン保護区」をめざす東恩納琢磨議員をはじめ14人全員当選を実現しなければなりません。6月市議会で現市長は、給食費、保育料の無料化を口実に基地交付金受け入れの補正予算案を提案しました。野党議員14人は修正案「財政調整基金で給食費、保育料だけでなく、無認可保育園の無料化(来年度予算までの7か月分)」を提案し、可決しました。市議選の前哨戦が始まっています。スタッフ派遣のカンパをよろしくお願いします。

8/19 (日) NUCHI GUSUI (ぬちぐすい) 映画「ZAN」上映&川口真由美ライブ

第1部 13:30~ 第2部 17:30~
各回 一般1200円(事前申込1000円)
中学生以下、その他割引あり
*詳しくはお問い合わせください
会場 モモの家
吹田市泉町5-1-18
定員 各40名
問い合わせ、申し込み
TEL 090-3872-8701



ジュゴンちゃんぐるニュース VOL.99 2018年7月15日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:
加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター
口座番号 00140-9-660199
他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店
口座番号 普通 8159084

ちゃんぐるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!